



飯能西中だより

天覧山 12月増刊号

飯能市立飯能西中学校
学校だより
令和3年度 第9-2号
令和3年12月24日発行
皆様に支えられ飯能西中は
50周年を迎えました

＜校訓＞ 誠・和・進 ＜学校教育目標＞ 自立 共生

＜目指す学校像＞ 心のよりどころとなる世界に誇れる学校

みんなが一緒に生活していればいろいろなことがあります。けれども、これら一つ一つに真摯に向き合うことを通して、私たち一人一人がお互いに大切にされていることを実感し、家に帰った時には、元気よく「ただいま」と言えたらよくありませんか。生徒にとっても、先生にとっても、そんな学校でありたいと願います。

校長 中村 公一

あと数日で令和3年が終わろうとしています。新型コロナウイルスの感染拡大は夏にピークを迎えた後は減少傾向が続いてきたのですが、ここへきて新たな変異株の出現により予断を許さない状況にあります。修学旅行や宿泊学習は何とか実施することが出来ましたが、合唱コンクールや全校での体育祭、部活動の大会など多くの行事が来年開催できるかどうか未だに不透明です。今後は行事そのものの内容を大きく見直して実施出来るものに変えていかなければならないと考えています。今回、1年生が実施した川越での校外学習のように新たな行事を模索していきたいと思います。

学校生活の様子を紹介します（11・12月）

学年別で体育的行事を実施

1年生は11月1日、2年生は10月29日
3年生は11月18日にそれぞれ学年ごとの
体育祭を実施しました。



1年生にとっては初めての西中三大大行事だったのですが、全校で実施できなかったのが残念です。けれども各学年ごとにそれぞれ委員や係が中心となって工夫を凝らした行事を行いました。

体験的な活動や校外活動も進めています



3年生では育児体験の授業を行いました。あらためて生命の大切さを学びました。

2年生では全員が車いすの体験を通して福祉を学びました。



1年生は12月1日に川越方面で校外学習を行いました。川越市内を散策しました。

円陣を組んで盛り上げます。



とうのす学級では共伸プラスチック（株）を見学しました。

主な展覧会・コンクールでの表彰者を紹介します

岩本 実莉	2年A組	第18回飯能市青少年の主張大会 最優秀賞 『語り継ぐ「戦争」』
林 香晴	2年B組	令和3年度「家庭の日ポスターコンクール」 優秀賞
小松あかり	3年A組	中学生の「税についての作文」 所沢税務署管内税務連絡協議会 会長賞 『消費税とは』
吉田ひかり	3年B組	中学生の「税についての作文」 所沢税務署管内納税貯蓄連合会 優秀賞 『少子高齢化と税金』
嶋寄 大和	3年C組	所沢間税会税の標語 埼玉県間税連合会 会長賞 『頼もしい コロナも砕く 税援助』
岩本 実莉	2年A組	所沢間税会税の標語 全国関税会総連合会 入選 『その税は 人・街・社会 守る盾』
木崎 心花	2年C組	発明創意くふう展 優秀賞（入間地区展）県展に出品 『飛沫防止傘「海月」』
渡邊セイラ	1年C組	科学教育振興展覧会 金賞（市内点）入間地区展に出品 『電気を使わないラジオの制作と研究』
木下 叶奈	3年A組	郷土を描く児童生徒美術展 入選（県展）
小松あかり	3年A組	郷土を描く児童生徒美術展 入選（県展）
東 美里	3年B組	郷土を描く児童生徒美術展 入選（県展）
小澤 実侑	3年C組	郷土を描く児童生徒美術展 入選（県展）
山崎 美海	3年C組	郷土を描く児童生徒美術展 入選（県展）

この他に市内展などで表彰を受けた生徒も多くいましたが、紙面の都合で割愛させていただきました。

第51代 生徒会スローガン

Next stage

～新時代への新たな挑戦～

新生徒会のスローガンが発表されました。本校は50周年を迎え新しいステージがスタートしようとしています。生徒一人ひとりが新たな挑戦をしていくことは、生徒自身の力になるばかりでなく、学校全体をより良くするための鍵にもなると考え、このスローガンを決めたそうです。

制服のリサイクル品を販売しました



後援会の皆さんの協力により、11月20日に制服リサイクル品の販売が行われました。この日の収益は後援会費として学校の活動を支えることに役立てられます。

この年末年始、家族で過ごす時間を大切にしてください

生徒の皆さんへ

皆さんの家庭ではこの年末年始をどのように過ごす予定でしょうか。私も皆さんと同じ歳の頃は、父、母、弟の家族4人で新年の祝い事をしていました。埼玉で働くようになってからも年末年始には帰省して家族で過ごすようにしていましたが、7歳下の弟が社会に出て三重で暮らすようになってからは帰省のタイミングが合わず、なかなか家族全員で年末年始を過ごせませんでした。昨年母が亡くなりもう家族4人で過ごすことは出来ません。まだ中学生や高校生だったころのお正月を懐かしく思い出す今日この頃なのです。